

令和2年度 中央区立晴海学校 自己評価報告書
<p>中央区立晴海中学校 所在地：東京都中央区晴海1丁目5番3号 校長名：藤江 敏郎 副校長：山崎 雄功 生徒数 509名（1年166名、2年159名、3年184名） 学級数 14 教職員数 教員25名 都講師3名 区講師6名 ALT1名 栄養士1名 主事4名 スクールカウンセラー2名 スクールソーシャルワーカー1名 特別支援教室専門員1名 心の教育相談員1名 図書館指導員1名 学習指導補助員3名 介助員1名 学校業務支援員1名</p>
<p>1 重点目標の達成状況及び取り組み状況 <重点目標の評価について> ○教職員の自己評価 重点目標1では86%、2では97%が肯定的意見であった。特に重点目標の「学習内容を工夫し、生徒の学習意欲が向上するような授業をしている」「生徒が規則やきまりを守って生活するように指導している」「生徒が明るく生き生きと学校生活を送っていけるように心がけ指導している」「生徒が集団生活のルールや規範意識を高め、思いやりの心を育むことができるように指導している」については、全教員が肯定的な意見であり、全員認識のそろった状態で生徒に指導を行っていることが分かった。 ○保護者による学校評価アンケート 質問8「あなたのお子様は学校の規則を守って生活している」、質問9の「学校は学習や部活動、行事においてあなたのお子様の努力を認めたり励ましたりして、温かく接している」質問11「あなたのお子様は、集団生活のルールなど規範意識が高く、思いやりの心が育っている」について89%の肯定的な評価となっている。一方、学習面において質問2「個に応じた指導」や質問5「家庭学習」、質問6「学習の機会」に関する評価については、肯定的な評価が60%台となっており、今後改善していかなければならない。</p> <p>重点目標1 「生徒の学習意欲を高め、確かな学力の定着を目指す教員の授業力の向上」</p> <p>① シラバスの充実と活用 教科横断的・縦断的な指導計画の策定を行い、実行した。</p> <p>② 基礎学力の定着 少人数指導や習熟別指導を実践した。また、研究授業などで教員同士の授業を見合う「授業見学週間」等を積極的に行い、教職員の指導力向上を図った。さらに、生徒の授業評価や生徒自身の学習意欲について検証し、補う部分、さらなる向上を目指す部分を見極めた。</p> <p>③ 教師の指導力向上 学習力サポートテスト等や生徒の授業評価に基づく授業改善推進プランに全教科で取り組んだ。日頃の授業では、言語活動の充実に力を入れることや改訂した「晴海中ミニ</p>

マム」(全教科で取り組む指導上の留意点)を意識し、全教員で実践することを再確認し、全教員が授業改善を行った。

④ 積み重ねの学習指導の工夫と学習の場の提供

少人数指導、朝学習等のスパイラル学習、夏季補充教室、放課後補習教室などの個に応じた学習の場を提供した。

⑤ 各種検定への挑戦

1年生が漢字検定、2年生が英語検定、3年生が数学検定を学年全員で受検した。各学年モーニングタイムで、生徒が各自で検定に向けて学習を行うとともに、各教科において教科担任より検定の学習のポイントや練習問題などを行い、意欲を高めた。

重点目標2

「生徒の活動の場を意図的に増やし、生徒を鍛え、充実した3年間を過ごす。」

① 学校生活の基盤である環境整備

授業規律は、全学年とも守られてきている。環境美化については、教室整備をはじめ学校の周りもきれいに整えられている。生徒会本部役員や生活委員会によるあいさつ運動も進められているが、今後も取組を継続し、あいさつの溢れる学校に。

② 生徒の成長と人権教育の推進

自己理解を深めさせ、差別・偏見の解消に努め、一定の成果は出ていると考えている。生徒会いじめ撲滅キャンペーンなど生徒の自主的な取組を継続しているが、課題はある。今後も意識して学校生活を送る生徒が増えるように、道徳教育、体験学習、奉仕活動を柱に、「共生」「博愛」の取組を続ける。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

<家庭や地域との連携>

① 学校だより、学年通信、ホームページ、掲示板などで学校の取組を積極的に発信した。

② 小中連携日の体験授業、3年生全員の晴海総合高校への訪問を行った。小学生の部活動体験、晴海総合高等学校との連携では、吹奏楽部の合同演奏、剣道部の合同練習等の交流など毎年行っているが、本年度は実施できなかった。

③ 複合施設の特徴を生かし、晴海保育園・マイホーム晴海において福祉体験、職場体験、保育体験、ボランティア活動などの交流活動を通して地域との連携を深めているが、本年度は実施できなかった。今後も継続発展させていく。

④ 学校説明会等で本校の特色ある教育活動を積極的にアピールし、理解を深められた。本年度は、保護者会や土曜学校公開日を実施できなかったが、今後も学校からの情報を発信して理解と協力を得られるようにする。

3 今後の改善方策

今年度の学校評価等を基に、次のような改善方策を講ずる。

(1) 学習指導の改善

①基礎基本を定着させ、それを活用して思考力・判断力・表現力等を育てるための授業改善を継続し、より一層の向上を目指す。

- ・言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力等の育成と学力の向上に全教科で取り組み、授業改善を図る。
- ・授業改善プランを通して、全教科で授業改善に継続して取り組む。
- ・多様な表現活動の場を学校行事や総合的な学習の時間を軸に工夫し、表現形態や表現方法の工夫、表現力の評価方法の研究を全教科で継続して進める。
- ・モーニングタイムをスパイラル学習や読書習慣・読解力増進の一環として進める。

②教科横断的な視点での指導計画を基に、縦断的関連を意識した本校の教育活動の充実に努める。

- ・「縦断的・横断的指導計画」を作成し実施することで、生徒にとって体系的に学習できるものとなるようにする。
- ・様々な学習の機会を通して、「キャリア教育」の充実を図る。

③個人カルテの活用の仕方について共通理解を図るとともに、個に応じた支援、様々な学習機会の提供を工夫する。

- ・「個人カルテ」をもとに、生徒の適性を踏まえた個に応じた指導を推進する。
- ・区非常勤講師、ALTを活用した授業（少人数指導やTT）や補充学習の充実、朝学習の充実を図る。

(2) 生活面での改善

①健やかな心と体を育成するための取組や豊かな人間性を育成するための基盤となる規範意識を強化し、礼節の体得を図る取組を継続し、より充実した学校生活を送れるようにする。

- ・健康と安全の教育の取組、食育の取組、保健体育の取組を柱として、健やかな心と体を育成する。
- ・表現力の育成を通して「共生」の基盤となる「自尊感情」「規範意識」や「コミュニケーション能力」「人間関係調整力」を高め、学校生活の充実を図る。
- ・道徳、特別活動を中心に、あらゆる機会を通して規範意識の強化や礼節の体得を図る取り組みを行う。生徒への意識付け、働きかけを続け、生徒自身が目的意識を持ち自治活動ができるようにする。よい面を積極的に評価して、本校の生徒としての自覚と誇りを高める。

③教育活動と家庭への啓発を強化する。

- ・スクールカウンセラーや心の教室相談員を活用して相談活動の充実を図り、一人一人の生徒のよさを生かす指導に努める。
- ・本校生徒の課題である家庭学習の習慣を身に付けさせるため、家庭への啓発を強化する。
- ・土曜学校公開日の工夫を図り、保護者が学校に関わる機会を充実させ、共に生徒を育てていく姿勢を高め家庭との連携がより深められるように努める。